

県南地方の農林業

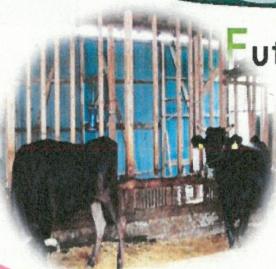


平成26年 8月

清らかな源流を生かし、次代につなぐ県南の農林業



ふくしまから
はじめよう。



Future From Fukushima.



1 県南地方の概要

(1) 地勢

県南地方は、首都圏から東北圏への入口に当たる福島県の最南端に位置し、栃木県・茨城県に接し、白河市をはじめとする1市4町4村からなり、その面積は1,233.24km²(西白河地方612.30km² 東白川地方620.94km²)で、県土の8.9%を占めています。

東部に阿武隈山系、西部に奥羽山系、南部に八溝山系があり、西白河地方を東に向かって流れる阿武隈川と東白川地方を南に向かって流れる久慈川の流域に沿って平野部が開けています。

(2) 気候

S56～H25の期間における管内の気候は、年平均降水量が白河1,411mm、東白川1,422mmとなっており、福島、若松と比べて降水量の多い地域となっています。

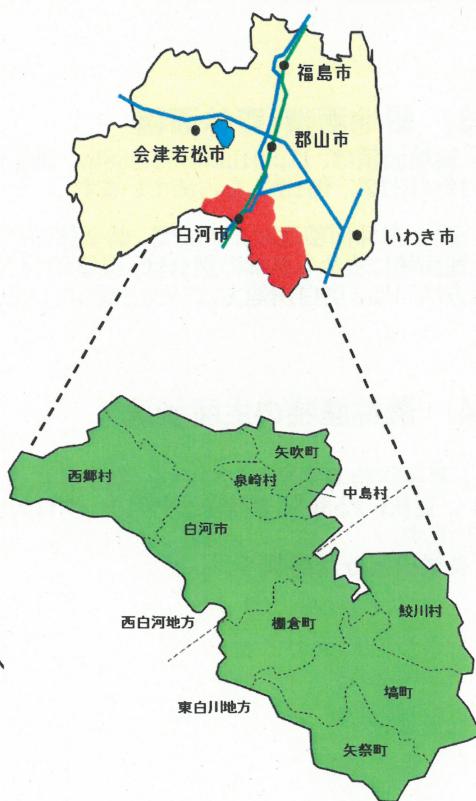
また、年平均気温は白河、東白川ともに11.5℃となっており、福島より低く、若松と同程度となっています。

(3) 人口

管内の人口は、H26.5.1現在、145,530人(50,666世帯)で、県人口の7.5%(世帯数で7.0%)を占めており、その内訳を見ると、西白河地方が112,005人、東白川地方で33,525人となっています。

また、H25.7.1と比較すると人口608人の減で、減少率は0.4%となっており、県の減少率0.5%とほぼ同じ率となっています。

(福島県：福島県の推計人口)



2 東日本大震災の被災及び復旧の概要

(1) 地震の概要

平成23年3月11日、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。市町村別最大震度は白河市で県内最大規模の震度6強、西郷村・中島村・矢吹町・棚倉町で震度6弱、泉崎村・矢祭町で震度5強、塙町・鮫川村で震度5弱が観測されました。

(2) 被害の概要

本地震により発生した津波や建物倒壊等により県内の死者・行方不明者は3,251人、住宅の全半壊は94,136棟と甚大な被害を受けました。

うち県南地方においては白河市葉ノ木平地区で発生した地滑りをはじめ、地震による土砂崩れ等によって死者15名、住宅の全半壊4,754棟の被害が発生しました。また、各種ライフラインや農林業施設へも多大な被害が発生し、白河矢吹地区では全長約18kmの幹線用水路のうち約3kmが被災し、約2,800haの農地で営農に支障が生じましたが、平成24年5月に災害復旧工事が完了し、農業用水が確保されています。

(3) 復旧の状況

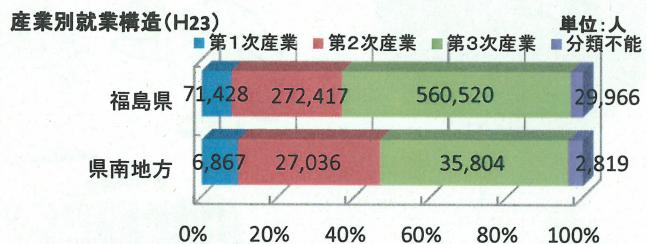
農林業関連の災害復旧状況は、平成25年度までに農地・農業用施設・集落排水施設で320箇所、治山・林道施設で43箇所の災害復旧工事を完了しています。

3 農業・農村・森林林業の概況

(1) 就業構造

就業者総数(15歳以上)は72,526人で、第1次産業の割合は9.5%となっています。

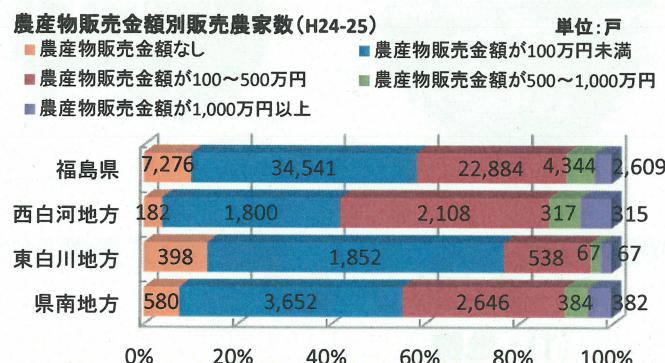
また、第1次産業就業者の内訳は、農業が94.2%、林業が5.5%、漁業が0.3%を占めています。



(2) 農林業経営体

総農家数は9,463戸で県全体の約10%を占め、うち、販売農家が7,556戸(80%)、自給的農家が1,907戸(20%)となっています。

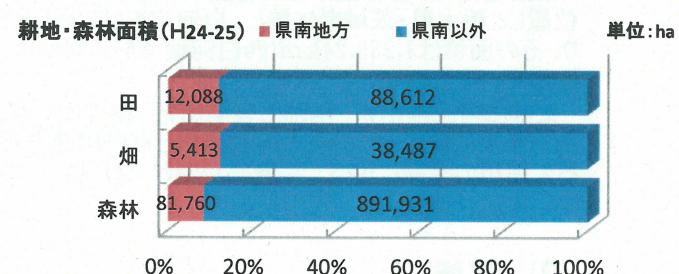
販売農家のうち、農産物販売金額が100万円以上の農家の割合は45%(県全体42%)で、特に、西白河地方は58%と大きな割合を占めています。また、販売金額が500万円以上の農家の割合は、県全体の10%に対し、中島村22%、矢吹町22%と高い割合となっています。また、林家数は4,641戸で県全体の11%を占めています。



(3) 耕地面積・森林面積

耕地面積は、17,501ha(田12,088ha、畑5,413ha)で、県全体の12%(田12%、畑12%)を占めています。

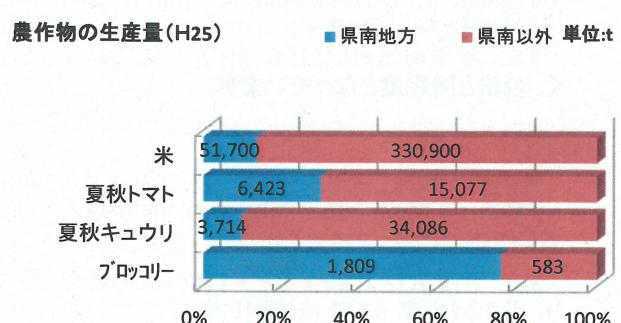
また、森林面積は81,760haで、県全体の8%を占めており、総土地面積に占める森林の割合は、県平均71%に対し、西白河地方は54%、東白川地方は79%となっています。



(4) 農林産物の生産状況

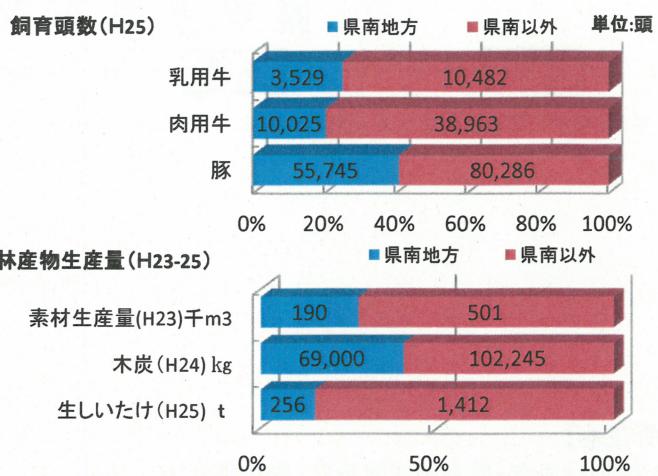
主要農作物の生産量について、県全体に占める割合は、米14%、夏秋トマト30%、夏秋キュウリ10%、ブロッコリーは76%となっています。

※農業振興普及部調べ



畜産の飼養頭数は、乳用牛が3,529頭、肉用牛が10,025頭、豚が55,745頭となっており、県全体に占める割合は乳用牛25%、肉用牛21%、豚41%となっています。

※農業振興普及部調べ



素材生産量は平成23年度で190千m³、県内の28%を占めています。また、木炭・生しいたけの生産量は、H24年度で木炭が69t、生しいたけは平成25年度で256tと震災前と比べ大幅に減少しており、県全体に占める割合は木炭40%、生しいたけ15%となっています。

※森林林業部調べ

(5) 農林地除染の実施状況

白河市、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、鮫川村の7市町村において除染を実施している他、管内全市町村において、カリ肥料の施用等による、放射性物質の吸収抑制対策を進めています。

(6) 放射性物質モニタリング検査

H25年度は合計2,265点の検査を実施し、山菜類、水産物の一部を除き、基準値を超えたものはありませんでした。

(7) 米の全量全袋検査

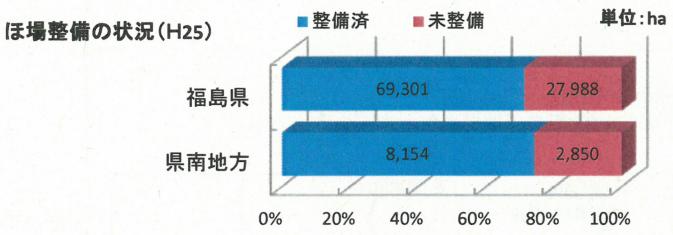
平成25年産米については、28カ所の検査場で32台の検査機器により約158万袋の検査を実施し、基準値を超えたものはありませんでした。

※農業振興普及部調べ

(8) ほ場整備の状況

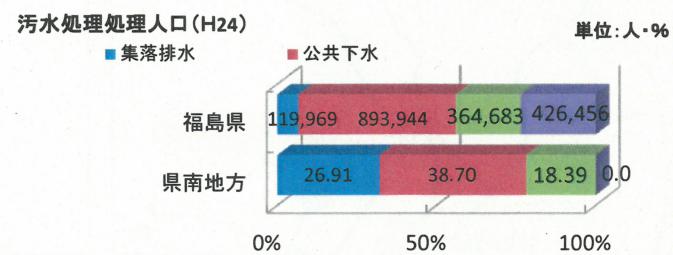
H25年度末までの水田整備面積は8,154ha、整備率は74%となっており、県全体の整備率71%を若干上回っています。

※農業振興普及部調べ



(9) 農業集落排水処理施設の整備状況

H24年度末の公共下水等を含めた県南地方の汚水処理人口普及率は84%（うち、農業集落排水施設人口普及率26.91%）となっており、福島県平均の77%（うち、農業集落排水人口普及率7%）を大きく上回っています。なお、東日本大震災で被災した34地区については、全地区で復旧工事が完了しています。
※福島県は福島県統計「2014」、県南地方は農村整備部調べ



(10) 林道の整備・保安林の指定状況

H24年度末の林道延長は379,005mで、林道密度は7.66m/haとなっており、県平均の林道密度7.22m/haを上回っています。なかでも、東白川郡については10.8m/haと県内でも非常に高い林道密度となっており、素材生産に大きく貢献しています。

水源を守り、安全・安心な暮らしの確保のため計画的な保安林の指定を進めており、H25年度の保安林面積は4,436haとS55年度の約2倍となり、保安林内における森林の維持造成、さらには計画的な治山事業を実施しています。
※森林林業部調べ

(11) 農林業等災害状況

平成26年2月8日から16日の間に降った豪雪により、パイプハウスや堆肥舎など857棟とトマト、レタス、イチゴ等の農作物9.31ha、集荷済み生乳約22tやしいたけ菌床などに被害が発生しました。本年3月に創設された「平成26年2月大雪農業災害特別対策事業」と国事業「被災農業者向け経営体育成支援事業」の活用等により早期復旧を進めています。

県南農林事務所組織体制図

